平成 29 年度
横須賀美術館　運営評価報告書
（一次評価）

平成 30 年（2018 年）６月

横須賀市教育委員会

美術館運営課

Ⅰ　美術を通じた交流を促進する

① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】年間観覧者数 100,000 人以上

［目標設定の理由］

・「横須賀市立美術館基本計画」（平成12年６月策定）では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などから年間観覧者数を10万人と推定し、開館後の実績としても初年度を除き10万人前後で推移しています。

・そのため当館では、まず観覧者目標を10万人以上とし、展覧会内容のバランスを考えながら展覧会を決定しています。

・観覧者の見込み数は、展覧会ごとの開催時期や過去に開催したターゲットの近い展覧会の実績などを勘案し算定しています。

・平成29年度は、これまで毎年達成すべき観覧者数としてきたミニマムライン10万人以上を達成目標とします。

［一次評価の理由］

・年間観覧者数100,000人という目標設定に対し実績は、開館初年度を除く過去最高となる118,370人となり、達成率118.4%と目標を上回りましたことから「A」評価としました。

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
観覧者数	113,007 人	114,861 人	108,413 人	118,370 人

展覧会名		観覧者数 見込(人)	観覧者数 実績(人)	達成率
企画展	中村光哉展	2,000	2,672	134%
	デンマーク・デザイン	18,000	19,175	107%
	美術でめぐる日本の海	24,000	17,634	73%
	ぼくとわたしとみんなの tuperatupera 絵本の世界展	25,000	46,091	184%
	没後40年伊藤久三郎展	7,000	4,861	69%
	第70回児童生徒造形作品展	13,000	13,175	101%
	青山義雄展　きらめく航跡をたどる	10,000	7,945	79%
所蔵品展のみの期間		6,000	6,817	110%
合　計		105,000	118,370	113%

【実施目標】

・様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。

・各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。

・外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。

・旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。

・商業撮影の受入と誘致を推進し、美術館のイメージアップを図る。

［目標設定の理由］

・横須賀美術館は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市のシティセールスや交流都市の推進という観点からも重要になります。

・市内外に積極的に情報を発信して広い層に魅力をアピールすることで知名度や認知度を向上させていくことが必要と考え、実施目標として設定します。

・広報、パブリシティ活動にあたっては、当館の利用者層や展覧会ごとのターゲット層に応じた効果的な広報を実施します。

・そのために、様々な広報媒体をその特性を踏まえて効果的に活用し、特に若い世代に対しては積極的にツイッターなどのＳＮＳを活用していきます。

［一次評価の理由］

・無料での情報掲載数及び商業撮影の件数等が目標を達成し、またツイッターのフォロワー数が前年に比べさらに増加し9,020人となったことから、「A」評価としました。

≪広報・集客促進事業≫

展覧会、イベント、ロケーションなど横須賀美術館の魅力をフル活用し、横須賀の交流拠点として集客に取り組んでいきます。そのために、企画展情報だけでなく、美術館の総合的な魅力や外部との連携による地域情報を積極的に発信していきます。

（１）訴求活動による集客促進

・パブリシティを期待した新聞、雑誌等への展覧会リリース

・新聞、雑誌等の無料での情報掲載数は 248 件となり、目標の 220 件を達成することができました。

（単位：件）

媒体	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
新聞	63	53	52	131
雑誌	85	55	64	65
Web	34	26	11	4
フリーペーパー	62	57	42	22
書籍	7	4	5	2
会報誌	8	8	4	0
TV	16	12	13	13
ラジオ	6	6	3	10
その他（カタログ等）	4	6	1	4
合計	285	227	195	251

・広報よこすか等他部局の広報媒体を活用した情報発信

⇒毎月の広報よこすかへの展覧会情報、美術館のイベント等の掲載

・公共交通機関への広告掲出

⇒京浜急行線　　駅貼り（２週間）５回、窓上（４週間）５回

※ 児童生徒造形作品展を除く各企画展で実施

⇒東急東横線　　窓上（１ヶ月）１回

※ tupera 展で実施

⇒京王線　　新宿駅・渋谷駅など駅貼り（会期中随時）３回

※ 児童生徒造形作品展を除く各企画展で実施

⇒山手線　窓上チャンネル（tupera 展）

横浜駅デジタルサイネージ（tupera 展）

品川駅デジタルサイネージ（青山展）

・美術系雑誌やタウン紙等、有料での情報掲載

⇒新聞、タウン紙等での広告

毎日新聞（tupera 展）、タウンニュース（青山展）

・ホームページ、ツイッター、フェイスブックを活用した情報発信
⇒ホームページは随時更新しています。
⇒美術館公式ツイッターの運用状況
フォロワー数は9,017人で昨年度末8,303人より約714人増加しました。

【参考】平成29年３月31日現在　フォロワー：9,017人、ツイート：3,672回
※ ツイッターは平成24年９月29日より運用開始
⇒フェイスブックの運用状況
（運用開始:谷内六郎館 平成27年７月31日～、横須賀美術館９月９日～）
横須賀美術館：1,280「いいね！」、谷内六郎館：170「いいね！」
ＳＮＳ毎の特性を生かした情報発信に努めていきます。

（２）イベント開催など展覧会以外の要因で利用者を増やす取り組みの推進

・コンサート等、各種イベントの開催
⇒マジックワークショップ、クリスマスコンサート、
春のミュージアムコンサートを開催

・10周年記念イベントの開催（展覧会、ボランティア事業を除く）
⇒横須賀芸術劇場少年少女合唱団コンサート 4/29
開館10周年記念レ・フレールコンサート　2/17
10周年記念レゴＲブロックモザイクアート展示 4/28～6/25
開館10周年パネル展示　4/28～8/27
その他プレゼント企画として展覧会の開催に合わせポストカードや
記念品を来館者にプレゼント

・年間パスポート、前売り券の販売

		28年度		29年度	
	販売場所	販売枚数	利用回数	販売枚数	利用回数
パスポート	美術館	318枚	1,949回	325枚	2,027回
	芸術劇場	15枚		29枚	
	計	335枚		354枚	
前売り券	美術館	53枚	228回	44枚	170回
	芸術劇場	204枚		146枚	
	計	257枚		190枚	

（３）外部連携の推進

①他部局との連携

・カレーフェスティバルなどイベント参加による情報発信
⇒カレーフェスティバル（6/3-4）や産業まつり（11/11-12）などへの協賛
・集客促進事業への協力
⇒横須賀体感モニターバスツアー
・米海軍横須賀基地在住者の誘致
⇒What’s New in Yokosuka（外国人向け広報紙）への展覧会情報の掲載
YOKOSUKA Circle bus(10/17・10/21)

外国人観覧者数　1,461 人
★西洋系＝712 人　★東洋系＝694 人　★その他＝55 人

・ふるさと納税へ商品提供
⇒観覧券＋レストランアクアマーレの食事券の提供

②民間事業者との連携

・民間事業者との広報協力、イベント参加による情報発信
⇒広報協力（観音崎京急ホテル、ソレイユの丘、うらり、すかなごっそ　ほか）
⇒日本大学学園祭（法桜祭 11/3-5）、
立正大学（橘花祭 11/3-5）
立正大学（星霜祭 11/3-5）
慶応大学（矢上祭 10/7-8）
聖心女子大（聖心祭 10/21-22）
高千穂大学（高千穂祭 10/20-22）
フェリス女学院大（FerrisFestival 11/3-4）
早稲田大学（理工祭）
⇒横須賀観光協会主催の米海軍基地居住者向けヨコスカサークルバスへの参加

・福利厚生団体等との割引施設契約の実施
⇒ＪＡＦ、ＪＴＢベネフィット、リロクラブ、神奈川県厚生福利振興会
神奈川県市町村職員共済組合　など

・京浜急行電鉄発行のよこすか満喫きっぷへの参加
7 月にスタートし、29 年度は 1,432 人が利用

③近隣地域との連携

・町内清掃、防犯パトロールなど地域活動への参加
⇒町内清掃などの地域活動への参加や町内会での美術館ＰＲ

・観音崎全体の魅力を向上させるためのイベントの開催
⇒観音崎フェスタへのブース出店（11/3）

・地域での消費活動を促進する取り組みの検討
⇒タイアップメニューの実施
各企画展で実施している併設のレストランアクアマーレに加え、観音崎京急ホテルにおいて tupera 展を除いて年５回実施。

（４）団体集客の推進

・市内民間事業者と連携した企画を含めた旅行会社への団体ツアーの企画提案、誘致
⇒旅行事業者営業訪問 7/6
（クラブツーリズム、四季の旅、京王観光、）
経済部主催の観光商談会（11/16）への参加
⇒募集型企画旅行による観覧者が大幅に減少する傾向

・ウェルカムトークの実施
⇒希望に応じて実施

	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数
募集型	65	2,280	4	113	15	525	11	393
その他	88	3,690	145	5,704	112	4,187	103	4,039
計	153	5,970	149	5,817	127	4,712	114	4,432

（５）商業撮影の受入と誘致

・イメージアップと認知度の向上を目的に商業撮影を受け入れた。

⇒昨年度は 30 件を目標としたが、最終的に 30 件となり目標を達成した。

※平成 26 年度は新車の撮影会があり、撮影料が多かった。

（スチール 30 件、動画 3 件）

年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
撮影件数	45 件	33 件	30 件	33 件
使用料	2,661,751 円	1,517,681 円	1,263,392 円	1,457,151 円

② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
S	A

【達成目標】市民ボランティア協働事業への参加者数延べ 2,000 人
（事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して）

［目標設定の理由］

・参加者数は「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための指標の１つとなるものです。

・29年度は、ギャラリートークボランティア、小学生美術鑑賞会ボランティアともに新規募集を行わないため、研修の回数は28年度より少なくなります。

・みんなのアトリエボランティアの登録者数自体は増えていますが、アトリエ参加者の定員数に対し、ボランティアは２～３名と決まっているので、活動自体は横ばいとなっています。

・プロジェクトボランティアの活動は、春・夏・冬の年3回となっています。

・年間の活動日数、ボランティアの参加状況、イベント参加者数の動向をふまえ、29年度の目標は、のべ2,000人とします。

［一次評価の理由］

・29年度の延べ参加者数は2,693人となり、目標を大きく上回りましたので、Ｓ評価としました。

・ギャラリートークボランティアの参加者数について、29年度は新規募集を行わなかったため、研修の回数が減りました。しかし、年度の途中から土曜日を除いた祝日にもギャラリートークを行うようにしたため、結果的に参加者数は微増しています。ギャラリートークボランティアの人数増加に伴い、一人当たりのトークの回数が減ってしまったので、トークの日数を増やしましたが、このことによって、ボランティアは高いモチベーションを維持できています。また、ギャラリートークへの参加者も1.2割増加しており、来館者サービスの充実につながっています。

・小学生美術鑑賞会ボランティアの参加者数について、29年度は新規募集を行わなかったため、研修の回数が減り、それが参加者数にも影響しています。

・プロジェクトボランティアの活動について、29年度は通常通り年3回（GW、夏、冬）のイベントを開催しました。28年度に比べてイベントの回数が減るので、企画イベントへの参加者数も減少することを見込んでいましたが、予想をはるかに上回る結果となりました。定員制のイベントを開催する場合、当日自由参加できるイベントも同時に開催し、誰もがイベントに参加できるようプロジェクトボランティアが工夫した成果です。

・みんなのアトリエボランティアの参加者数については、昨年よりも減少していますが、「みんなのアトリエ」への参加者数が少ないため、申出を断る場合もありました。

市民ボランティア協働事業への延べ参加者数　（単位：人）

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
ギャラリートークボランティア	323	289	334	338
小学校鑑賞会ボランティア	194	195	263	197
みんなのアトリエボランティア	28	22	34	21
ギャラリートーク参加者	345	337	371	453
プロジェクトボランティア	229	225	283	272
プロジェクト当日ボランティア	50	38	27	49
企画イベント参加者	1,086	1,142	1,350	1,363
計	2,255	2,248	2,662	2,693

【実施目標】

・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。

・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。

［目標設定の理由］

・ボランティアと協働することにより、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。美術館への親近感や愛着を持ったボランティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。

・ボランティア活動は労働ではなく、美術館が担うべき社会教育の一環として考えています。ボランティアがそれぞれの経験やアイデアを活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そして、それがやがて地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。

・ボランティア活動がより広がるよう努めます。例えば、ギャラリートークボランティアの活動を周知したり、小学生美術鑑賞会ボランティアやみんなのアトリエボランティアのような美術館の事業に関わる活動の充実などを検討していきます。

［一次評価の理由］

（全体として）

・活動の目的や内容が異なるので、基本的にはギャラリートークボランティアと小学生美術鑑賞会ボランティアの活動は分けて考えていますが、学芸員による所蔵品展や企画展のレクチャーについては、希望すれば横断的に出席できるようにしています。ボランティア同士の交流の場にもなっており、お互いに良い刺激を受けているようです。

・ギャラリートークボランティアの自主研修の補助や、プロジェクトボランティアのイベント開催に向けてさまざまな方法や道具を試すなど、各活動において、ボランティアに対して細かい対応ができています。

（ギャラリートークボランティア）

・開館10周年を記念し、第2期所蔵品展において、「特集：ボランティアが選んだ朝井閑右衛門」を開催しました。ギャラリートークボランティアが、一人一点朝井閑右衛門の作品を選び、それに解説をつけて展示するという取り組みを通して、所蔵品展にますます親しみを持ち、ギャラリートークへの意欲が湧くことを期待しました。来館者も、学芸員とは異なる解説が新鮮だったようです。また、この取り組みによって、ギャラリートークボランティアの存在を広く周知できたのではないかと考えています。

・29年度は、ボランティア自身が研修を準備・進行する自主研修を9回行いました。日本近代美術における主な美術団体を研修テーマとし、各回１～２団体について担当者が調べてきたことを発表、情報を共有し、意見交換しました。

・ギャラリートークでは、当日の担当者間で取り扱う作品を分担し、それぞれ工夫した個性的なトークを展開しています。

（小学生美術鑑賞会ボランティア）

・企画展毎に、担当学芸員によるレクチャーを行い、企画展でもボランティアが安心して小学生を受け入れられるようにしました。

・ボランティア２名に１クラスの引率を任せており、責任感とやりがいを持って取り組んでもらいました。

（「みんなのアトリエ」ボランティア）

・29年度も新規登録者が増えました。これまでも活躍していたボランティアは経験が豊かになり、参加者と自然な交流ができるようになりました。

（プロジェクトボランティアについて）

・29年度は、ＧＷ・夏・冬にイベントを企画・開催しました。とりわけＧＷのイベントは、ボランティア結成10周年を記念して、10種類の活動を一度に楽しめるイベントを企画しました。これまでの経験を最大限に生かし、もりだくさんの内容であったため、幅広い世代が楽しめるイベントとなりました。

・プロジェクトボランティアのイベントは、「だれでも参加できる」「美術館を活かした活動」という点に留意しながら、ボランティア自身が発案し運営するイベントです。それぞれのイベントは地域の行事として定着し、市民を中心に多くの方が参加しています。

・ボランティアの経験値が高くなったことで、イベント開催に向けて着々と準備が進められるようになりました。また、当日の進行がスムーズに行われています。

［次年度への課題］

・ギャラリートークボランティアおよび小学生美術鑑賞会ボランティアを新規募集します。ボランティアとして活躍できるよう、研修やサポートを充実させます。

・ギャラリートークボランティアの普段のトークをふりかえり、より良くするための研修をします。

・小学生美術鑑賞会ボランティアについては、タイムキーパーとしての役割に加え、児童の鑑賞活動をよりサポートできるよう、研修を行います。

・プロジェクトボランティアの意向を尊重しながら、安心・安全なイベントの開催をサポートします。

Ⅱ　美術に対する理解と親しみを深める

③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】企画展の満足度 80%以上※

［目標設定の理由］

・展覧会を企画・実施することは、美術館にとって基本的な活動のひとつであり、中でも、企画展は、波及効果が高く、最も力を注ぐべき事業といえます。こうした認識から、企画展に対する来館者の満足度を、美術館の社会教育機能の高さを示す目安としました。

・満足度は来館者へのアンケートによって算出しており、同じ方法の調査を継続的に行っています。またその満足度の内訳は「作品」「観覧料」「配置・見やすさ」「解説・順路」「心的充足」を計っていて、その総合数値を出しています。

・満足度の内訳を見ていくと、「観覧料」「解説・順路」の内の順路については、満足度を上げていくことには限界があり、一方「作品」「配置・見やすさ」そして解説については改善の余地があります。

・ここ数年の数値の変化の経緯を総合的に判断し、目標を80%以上としました。

※ なお、年度ごとの「企画展満足度」を算出する際には、それぞれの企画展の観覧者数の比率を反映させています。企画展Ａの観覧者数をＡ（人）、企画展Ａの満足度をａ（%）とするとき、年度ごとの満足度（%）は
（Ａａ＋Ｂｂ＋Ｃｃ＋Ｄｄ＋Ｅｅ＋Ｆｆ）／（Ａ＋Ｂ＋Ｃ＋Ｄ＋Ｅ＋Ｆ）
で表します。

［一次評価の理由］

目標の「80%以上」を超える 89.6%という数値となりました。

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
企画展満足度	84.6%	87.0%	88.0%	89.6%

企画展別にみると、「デンマーク・デザイン展」は、日本で初めてデンマーク・デザインの歴史について家具などを中心に構成した展覧会でした。とりわけ作品の満足度は91.5%と高く、安らぎのある心地よいライフスタイルがテーマでもあり「心的充足」や

「配置」も高い数値を得ています。

「美術でめぐる日本の海」は日本画、油彩画、写真、浮世絵、ポスターから、船絵馬、万祝、大漁旗など幅広く海にまつわる造形物を紹介する展覧会でした。「作品」については87.5%、「配置・見やすさ」は85.2%という数値で、バリエーションの豊かさが満足度を押し上げたと考えられます。

「tupera tupera 絵本の世界展」では人気ユニット tupera tupera による絵本原画を中心にした初めての大規模個展でした。出品点数の多さや、撮影スポット、映像など工夫を凝らし、「作品」は95.6%、「心的充足」は90.4%と軒並み高い数値であり、「総合」でも90%を超えました。

「伊藤久三郎展」は、ご遺族から寄贈された油彩、デッサン類を整理し、代表作を加えて開催する22年振りの回顧展でした。「作品」は88.3%、「配置・見やすさ」は86.2%と高い数値でしたが、「心的充足」は75%とやや80%を下回りました。総合的には約80%という結果となりました。

「青山義雄展」では、横須賀ゆかりの洋画家の展覧会でした。「作品」「心的充足」については約90%前後と高い数値が出ました。概ね高い満足度を示し、総合的には90.6%となりました。

毎年恒例となっている「児童生徒造形作品展」の観覧者の多くは出品された子どもたちの関係者であり、内容を批判する要素に乏しいことから、他の企画展と満足度を比較するには注意が必要ですが総合的に89.5%と高い満足度を示しています。

また、要素別に満足度を検討すると、「観覧料」「解説・順路」については、80%を下回るなど相対的に低い数値となっており、改善が難しい点もあります。一方、「作品」や「配置・見やすさ」については概ね高い数値となっています。

【実施目標】

- **幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間６回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。**
- **所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間４回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。**
- **知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。**
- **美術への興味や関心が深まる美術関連の資料（図書、カタログ等）を、図書室で収集・整理・保管・公開する。**
- **資料が探しやすく、快適に利用できる図書室環境を維持する。**
- **主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。**

［目標設定の理由］

社会教育機関としての美術館は、常に知的好奇心を満足させる事業を行い、また、そのための環境を整えていかなくてはなりません。美術として扱うべき領域はとても広く、利用者の幅広い興味に応えるためには、所蔵品展以外にもさまざまなテーマを設けた企

画展を開催する必要があります。作品の借用が許される期間に限度があることなどを考慮し、1カ月半から2カ月程度を目安とした年間6回の企画展を計画・開催しています。また、コレクションの魅力を紹介するために、所蔵品展および谷内六郎展をそれぞれ年間4回開催しています。

さらに、横須賀美術館では、美術への親しみ、理解を深めるために、講演会やワークショップなど、年間を通じてさまざまな教育普及事業を展開しています。ここでは、広く一般向けの教育普及事業について、評価の対象とします。

これらの事業を企画・実施するための基礎が、調査研究です。範囲は、所蔵作品に関することを中心に、広く美術に関すること、教育普及に関することを含みます。

［一次評価の理由］

29年度の企画展は、海外のデザイン展、親しみやすいテーマ展、人気の絵本作家展、近代画家の個展など多岐にわたっていました。

「デンマーク・デザイン展」は日本で初めて本格的にデンマークのデザインを紹介した展覧会です。19世紀末からの約120年間の歴史を、家具、テーブルウェア、照明器具等を中心に約190点を展示し、座れる椅子のコーナーや写真撮影スポットも設けました。デザインや快適なライフスタイルに共感する人々に支持されました。

開館10周年の記念でもある「美術でめぐる日本の海」では、日本画、油彩画、写真、浮世絵、ポスターから、船絵馬、万祝、大漁旗など海に関わる様々な造形物を取り上げ、日本人と海の関わりを多面的に紹介しました。幅広い年齢層の方々が楽しめるよう、写真撮影スポット、絵本、ぬり絵コーナーを設けました。

「ぼくとわたしとみんなの tupera tupera　絵本の世界展」では、人気の絵本作家 tupera tupera による絵本原画やイラストレーションを中心に、雑貨、工作などを一堂に展示しました。撮影スポットも人気のコーナーとなり子ども連れの方々から多く支持されました。

「没後40年　伊藤久三郎展」では、ご遺族より寄贈していただいた多くの油彩、素描類を整理し、各地の代表作を加えて、改めて洋画家・伊藤久三郎の仕事の全貌を紹介する22年振りの展覧会を開催しました。

「青山義雄展」では、横須賀出身であり、フランスで活躍した彼の画業を顕彰しました。色彩豊かな風景画に特徴があり、初期から晩年にかけて徐々に鮮やかになっていく作品に、多くの方が共感したと考えられます。

所蔵品展では、会期ごとに特集を組み借用作品も加えて、より魅力のある展示となるよう努めました。平成29年度は開館10周年にあたり、前年度に行った来館者の方によるコレクションの人気投票の結果を特集に反映させるなどの工夫をしました。

第1期では、人気投票の結果を反映させた「みんなが選んだベスト・コレクション」と題し、上位30位までの作品とともに、投票時のコメントを共に掲出しました。

第2期では、特集として、編み師203gow の作品展を北側展示ギャラリーにダイナミックに展示しました。また展示室5では「ボランティアが選んだ朝井閑右衛門」と題し、ボランティアの方のコメントと共に作品を展示しました。

第3期では、横須賀出身の岡本健彦の作品11点を追悼展示しました。

第４期は「横須賀のアーティスト」を特集し、所蔵品の中から特に横須賀出身の作家を集中的に取り上げ、借用作品も加えて展示しました。

谷内六郎館では、所蔵品展の会期と連動して、年４回の展示替えを行っています。所蔵品展と同様に、来館者による投票を行いました。29年度は、１期では「船を見た日」、２期では「あの日の海の色」、３期は投票結果を反映させた「みんなが選んだ谷内六郎」、４期では「おやすみからおはようまで」というテーマをたてました。また第３期では谷内六郎館エントランスのレイアウトを変更して見やすくすると共にフォトスポットを設置しました。

教育普及事業（一般向け）については、一覧すると下表のようになります。

参加者と講師、主催者が互いに質の高いコミュニケーションを取れるよう、そのつど適正な規模を考えて実施しています。また、講師と美術館スタッフが打合せを重ね、入念な準備を行なっています。

なお、平成29年度は、「ぼくとわたしとみんなの tupera tupera 絵本の世界展」に合わせ、絵本の朗読と、その絵本に関連する音楽による野外コンサートを行いました。対象年齢やジャンルの枠をまたぐ新しい試みでしたが、好評を得ることができました。

講演会・アーティストトーク　（単位：人）

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
美術でめぐる日本の海展関連「大漁旗トーク」	7 月 17 日	森庄平（大漁旗研究家）	70	－	50
tupera tupera 展関連「tupera tupera とビューティフルハミングバードの絵本ライブ」	9 月 9 日	tupera tupera、ビューティフルハミングバード	－	－	387
伊藤久三郎展関連講演会「戦争の描き方」	12 月 2 日	原田光（美術史家）	－	－	20
青山義雄展関連講演会「青山義雄　人と芸術」	2 月 18 日	橋秀文（神奈川県立近代美術館企画課長兼普及課長）	70	－	40
第４期所蔵品展関連アーティストトーク	2 月 11 日	井上裕起（出品作家）	70	－	32
第４期所蔵品展関連アーティストトーク	3 月 10 日	安木洋平（出品作家）	70	－	63
第 4 期所蔵品展関連対談　版画家・磯見輝夫×藤田修	2 月 12 日	磯見輝夫、藤田修（いずれも出品作家）	70	－	30
学芸員によるギャラリートーク（各企画展）	6 月 10 日 7 月 22 日 9 月 30 日 11 月 25 日 3 月 17 日 3 月 27 日	当館学芸員	－	－	125 *合計

展覧会関連ワークショップ　（単位：人）

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
青山義雄展関連ワークショップ「キラキラきらめくカラフル砂絵」	2 月 25 日	宮地淳子（画家、砂絵工房 J’s 主宰）	20	26	20
第 4 期所蔵品展関連ワークショップ「海の見える哲学カフェ」	3 月 11 日	土屋陽介（開智日本橋学園中学高等学校教諭。開智国際大学非常勤講師）、広瀬美帆（出品作家）	30	－	7

オトナ・ワークショップ　（単位：人）

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
「katakata の型染め風呂敷」	11 月 4、5 日	Katakata（松永武・高井知絵/染色作家）	20	15	13
「フックドラグの鳥ブローチづくり」	11 月 23 日（2 回）	イワタマユミ（羊毛作家）	16	20	17

映画上映会　（単位：人）

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
冬のシネマパーティー『メットガラ』（日本語字幕版）	2 月 3 日	キノ・イグルー（移動映画館）	30	47	28
	2 月 4 日		30	31	29

教育委員会他課との連携　（単位：人）

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
第41回　横須賀市市民大学特別講座「マティスと青山義雄」～二人の画家による日本とフランスの文化交流～（横須賀市生涯学習財団との共催。ウェルシティ市民プラザ）	2 月 28 日	浅間哲平（静岡県立大学講師）、沓沢耕介（当館学芸員）	80	－	65

図書室に関しては、定期購読雑誌や作品集をはじめ、美術史・デザイン・建築・写真など幅広い分野の美術図書、展覧会図録、自館で開催する展覧会に関連する資料、子ども向けの美術入門書などを収集しています。配架の工夫や室内案内表示により利用しやすい環境づくりに努めているほか、展示室内にも案内用のファイルを置き、利用を促しています。

④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
S	A

【達成目標】中学生以下の年間観覧者数 22,000 人

［目標設定の理由］

子どもたちが美術館に親しみを持ち、利用しやすくするため、さまざまな取り組みを行っていますが、その成否は、実際の観覧者数に反映されるはずです。

従来、横須賀美術館では、一定の質を保った美術展を年間通してバランスよく行うこととし、春～秋には、子どもや家族層にも親しみやすい企画展を１つ以上開催しています。平成 28 年度については、７月～８月に「自然と美術の標本展」を開催し、市立博物館とも連携しながら自然科学と美術の両分野を横断する新しい形の展示を試み、家族層を中心に好評を得ました。

平成 29 年度も、tupera tupera の絵本を紹介する展覧会や、触れたり写真を撮ったりして楽しめる 203 gow の特集展示など、世代を問わず親しみのもてる展示を行うとともに、美術館でなければできない子ども向けの事業を開催することとします。

また、学校連携については、メインとなる小学校鑑賞会に加え、過去 4 年間では、アートカード開発を通じた教員との共同プロジェクトによっても成果をあげることができました。今後も、学校連携を継続的に発展させていくためには、教員がより参加しやすいよう配慮しながら、授業作りに有益な情報提供を行う場を設けていくことが必要と思われます。こうした視点にもとづき、平成 29 年度は、教員向け鑑賞会などの新しい工夫を取り入れながら、学校を通じた美術館の活用促進が進むようつとめます。

ただし、数値面で見ると、市全体の 14 歳以下の人口が減少傾向で、小学生鑑賞会の参加者である市立小学校６年の在籍者数も、開館時と比較して 15%ほど下降しています。このようななかで、中学生以下の観覧者数を毎年同じ水準で維持することは容易ではありません。こうした点から、平成 29 年度の観覧者数の目標は、これまで通りの 22,000 人とします。

［一次評価の理由］

29年度の中学生以下の年間観覧者数は27,345人となり、目標を達成しました。

中学生以下の観覧者数　（単位：人）

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
幼児	9,216	7,202	5,668	11,562
小学生	12,851	12,639	12,414	12,335
中学生	4,003	4,332	4,126	3,448
計	26,070	24,173	22,208	27,345

家族連れが訪れやすい時期に、若年層向けの事業を実施するという年間の事業計画が、目標達成につながっています。

平成29年度は、秋の行楽シーズンに「ぼくとわたしとみんなの tupera tupera　絵本の世界展」（会期＝9月9日～11月5日）を開催したことが、中学生以下の観覧者数に大きく作用しました。特に、幼児の増加に関しては、同展の会期に当たる9～11月の3か月間だけで、幼児の観覧者が約9,200人に及び、同展の影響がきわめて大きかったことがうかがえます。乳幼児を含む若い家族層の増加は、新規来館者の開拓につながるという点で、大きな意味があると考えます。

一方で、中学生の観覧者数は、年間を通じて低めの水準にとどまりました。もとより中学生は多忙な年代で、年間の中学生観覧者の約半数が夏休み期間に集中し、日常的な来館を促しにくいのが実情です。平成29年度もその傾向は変わりませんが、8月に開催した「美術でめぐる日本の海」展が、どちらかといえば大人向きであったこと、また、その後の「tupera tupera 展」が、幼児～小学校低学年層に、より強く訴える内容であったことなどにより、青少年向けの事業が相対的に少なくなったことが、観覧者数に影響したと見られます。「若年層向けの事業」といっても、嗜好や行動パターンの年齢による細分化は顕著であり、特に、多忙な青少年層への働きかけは、難しい課題の一つと認識しています。

展覧会以外の事業としては、子どもたちの造形活動を支援する目的で、7回の子ども向けワークショップを実施し、合計で432人（保護者を含む）の参加を得ました。また、恒例となった海の広場での映画上映会も、2日間で532人（保護者含む）の参加があり、人気を保っています。

鑑賞の面では、小学生美術鑑賞会（全市立小学校６年生約3,150人が参加）、中学生対象の鑑賞教室（保護者を含む116人が参加）、未就学児から小学校低学年を対象とした親子向け展覧会ツアー（3回実施、10組30人が参加）、保育運営課との連携による市立保育園10園を対象とした鑑賞プログラム（約330人が参加）など、年齢別にさまざまな鑑賞活動支援事業を行なっています。いずれも、継続的に実施しているものですが、教員や保育士との連携、他館との情報共有により、つねに発展的な内容となるよう努めています。

【実施目標】

- **学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。**
- **学校及び関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。**

・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。
・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。
・小学生美術鑑賞会を充実させるため学校との連携を強化する。
・美術館を活用した鑑賞教育がいっそう充実するよう、アートカードの活用促進をはじめ教員の授業作りに有益な情報提供を積極的に行う。

［目標設定の理由］

美術教育は表現と鑑賞との両輪によってなりたつものですが、多くの学校教育現場では鑑賞の機会に乏しく、表現としての造形教育に偏りがちでした。

近年の学習指導要領では、小・中学校における鑑賞教育がより重視されるようになってきています。平成 23 年度から実施された小学校の新学習指導要領では、鑑賞教育のために地域の美術館を利用することに加え、学校と美術館との連携を図ることが明示されています。美術館には、先生との情報共有を密にし、学校からのニーズに応えることが求められています。

学校教育ではできない、美術館だからこそできることは何かをじゅうぶん意識しながら、鑑賞教室やワークショップ、作家との連携等充実したプログラムを企画、提供することによって、子どもたちが美術に親しみをもつ機会の拡充につとめていきたいと考えています。

［一次評価の理由］

・平成20年度から、市内の子どもたちの作品を一堂に展示する「児童生徒造形作品展」の会場となっています。学校・幼稚園と緊密に連携しながら運営にあたっています。

・平成19年度から実施している小学生美術鑑賞会の対応には、学芸員と専門のボランティアがあたり、ワークシートなどを利用して、鑑賞の楽しさを知ってもらえるようつとめています。受け入れ側が経験を積むことによって、内容も充実度を増しています。

・小学生美術鑑賞会に際し、先生方には、できる限り下見と打ち合わせのため来館してくださるようお願いしています。また、その際に、アートカードを使った事前授業の効果などもお伝えしています。事前授業によって、あらかじめ作品のイメージが伝わっていると、作品に対する児童の反応もよくなることが分かっており、この事業の質を保つためには、今後も働きかけを継続していくことが重要です。

・小学生美術鑑賞会以外で来館する市外あるいは私立の小・中学校に対しても、要望に応じて、美術館でのマナー解説やワークシートの提供を行いました。

・夏休みの時期に合わせ、中学生のための美術鑑賞教室を実施しました。鑑賞ガイドの制作にあたっては、中学校の先生にヒアリングを行うなどして、参加する中学生のニーズに合うよう努めました。

・キャリア教育の面で、市立中学校の職業体験に協力しています。平成29年度は12校32人を受け入れました。

・鑑賞支援活動については、対象となる年齢層の幅を広げています。親子向けツアーのほか、平成24年度から市の保育運営課と連携し、市立保育園全10園に対し、出前授業と来館時の鑑賞プログラムを実施しています。

・美術館が主体となって行なう事業だけでなく、先生が中心となり学校で行なうことのできる鑑賞教育について、研究と実践を重ねています。平成25年度に開発した鑑賞教材「横須賀美術館アートカード」（文化庁補助事業）は、市外からも注目され、平成29年度は11件の貸し出しを実施しました。市内においては、教員が独自のアートカードを制作して行う新しい授業の取り組みがあり、美術館から資料の提供を行いました。また、教員を対象とした「美術館活用講座」を開催し、学校現場との関係強化を図っています。

・子どもを対象とした教育普及事業に積極的に取り組んでいます。ワークショップなどの造形活動のほか、野外映画会や、親子向けのツアーなど、さまざまなかたちで美術を楽しむ機会を設けています。

［次年度への課題］

・「児童生徒造形作品展」の集客が難しくなっています。少子化の影響が考えられますが、さらに平成29年度は、広報掲示板が確保できなかったこと、また、経費の面から、全児童・生徒へのチケット配布を取りやめたことなども作用したと見られます。観覧料無料の展覧会に対しては広報経費がかけにくく、また、少子・高齢化の状況も変わらないようすであることから、今後もこの傾向は続くと考えられ、費用対効果の高い広報手段が必要となっています。

・「親子ギャラリーツアー」や「中学生のための美術鑑賞教室」など家族で参加できる事業において、保護者および大人の割合が高くなる傾向があります。子どもに特化した事業の独自性を維持する工夫が必要であると同時に、鑑賞に関する保護者向けの情報提供も求められています。

・アートカードをはじめ、横須賀美術館所蔵作品の学校での活用が、より活発に行われることで、学校での鑑賞教育の質が底上げされると考えます。学校にとって一層活用しやすい美術館であるためには、先生との情報共有の機会を作り、先生方のニーズをより迅速に汲み上げていく必要があります。「先生のための美術館活用講座」をそのような場として発展させるよう努めます。

⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	C

【達成目標】環境調査の実施（年２回）
美術品評価委員会の開催（年１回）

［目標設定の理由］

美術館としての基本的な活動として、作品収集を行っていますが、購入費（基金）が充当されていないため、寄贈に頼っているのが実状です。したがって、数値目標として新規収蔵作品の数量等を設定することは不適切であると考えます。そうしたなかで、収集のための情報収集や調査を継続的に行うことの結果として、受け入れの可否を諮問するための美術品評価委員会を、年に１回開催することを数値目標とします。

また、収蔵庫の環境が作品の保管に適しているかどうか調べる環境調査を、年２回実施することを、あわせて目標とします。

［一次評価の理由］

収蔵施設の環境調査を、５月22日～６月22日、７月18日～８月18日の日程で２回実施し、概ね良好な結果を得ました。また、寄贈の申出のあった作品についての調査を行い、諮問のため美術品評価委員会を３月17日に開催しました。

【実施目標】

・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。
・適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。
・計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。
・所蔵作品が広く価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。

［目標設定の理由］

すぐれた美術作品をひろく収集し、次世代に伝えてゆくことは、美術館の果たすべき基本的な役割です。そのために、保管のための適切な環境整備と、作品そのものの修復および保護を行っています。他の機関での展示等の所蔵品の活用は、作品への影響を充分に考慮したうえ、可能な範囲で行っています。

［一次評価の理由］

平成29年度は寄贈10点を受入れました。

昨年度は32点、年度によっては50点を越える寄贈を受入してきたことから見ると点数は減りましたが、宮崎進、磯見輝夫、島田章三の個展等に出品された質の高い作品の寄贈を受けました。若林砂絵子の油彩画2点は、平成28年度美術品評価委員会で承認を受けていましたが、練馬区立美術館の寄託解除を待って平成29年度に受入を行いました。

収蔵庫・保管庫について、昆虫類、菌類、気相についての調査（環境調査）を年度内に２回実施し、概ね良好であることを確認しています。開館以来継続的に行っていることには、環境の長期的な変化を観察する意味があります。

修復、額装は、作業に時間がかかることから所蔵品展での展示や他館貸出予定がある作品を優先し、修復額装3点、額装（額改修を含む）7点、作品への映り込みを防ぐためのアクリル外し5点、マット改修16点を行ないました。平成30年度以降も引き続き、近年の寄贈作品を中心に必要な修復、額装を行ない、画面への映り込みがはなはだしいものについては、アクリルやガラスを外して額縁改修を行うなど見直しを行ってまいります。

所蔵作品の活用について、所蔵作品のうち、13件、101点を他機関に貸出しました。

貸出点数から見ると、「昭和叙情・心のふるさと―谷内六郎作品展」（青梅市立美術館）、「日本パステル畫事始め展」（目黒区美術館）への貸出が過半数を占めています。貸出件数は近年漸減傾向にありましたが、昨年度の9件121点から微増し平成24年度14件、25年度と同水準です。この数字は、美術館で全国集荷を行うような大規模企画展開催が減少していることに加え、当館への貸出依頼がある特定の作品に集中する傾向があり、そのため所蔵品展での展示計画や作品保護との兼ね合いで貸出を制限する場合があるためと考えます。

以上により、例年並みの活動をしているといえますが、作品購入費の充当が途絶えている状況が解消されていないことから、一次評価を「Ｃ」としました。

［次年度への課題］

・美術品取得基金が活用されず美術品の購入取得が行われていないことから、市の定期監査で美術品取得の長期的な視点でのあり方、取得計画、資金積立の仕組みづくり等の意見が公表され、市議会においてもその点を指摘する質疑がありました。これを機に、財源、基金の存廃を検討し、美術品の購入取得に向けた仕組みづくりを行います。

・収集作品を精選します。

・貸出作品の偏りを減らすため、所蔵品展を通じて作品の活用と周知に努めます。

・収蔵庫のスペースを有効活用し、作品を適切に保管します。

Ⅲ　訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】

・館内アメニティ満足度 90%以上

・スタッフ対応の満足度 80%以上

［目標設定の理由］

・当初は目標値が一定ではなく変動していましたが、一つの適正基準を設け、それに対しての達成度による評価をしていただくよう、目標値を固定しました。

・達成目標の適正基準として、それぞれ 90%以上、80%以上を設定しました。
この目標値は、過去の実績を参考に、目標を高く持ちつつも達成が決して不可能ではないと思われる数値であり、言い換えれば、目標値の達成イコールかなりの高水準を維持できていると思われる数値としました。

・満足度は、来館者アンケートの質問８項目（アクセス、館内印象、静かさ、スタッフ、休憩所、トイレ・授乳室、清潔感、総合）の内、外部要因や展覧会等の企画内容による影響を受けにくい２項目（スタッフ、総合）を指標として使用しています。

・館内アメニティ満足度については、来館者アンケートの質問事項「全体的にみて、館内では気持ちよく過ごせた。」に対する満足度（総合満足度）、スタッフ対応の満足度については、来館者アンケートの質問事項「スタッフの対応・案内は適切だった。」に対する満足度を指標としています。
なお、原因を究明し改善に役立てるため、24 年度から５段階評価に加え、「特によかったところ、よくなかったところ」を具体的に記述していただく欄を設けています。

［一次評価の理由］

館内アメニティ満足度、スタッフ対応の満足度はともに高水準で推移しています。館内アメニティ満足度については、平成28年度に続き目標を達成しており、スタッフ対応の満足度についても高水準で目標を達成しています。

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
館内アメニティ満足度	89.9%	92.6%	92.3%	92.8%
スタッフ対応の満足度	81.9%	87.5%	86.0%	86.8%

館内アメニティ満足度に関しては、「美術館入口やトイレの場所がわかりにくい」など、案内サインに係るご意見をお客様から頂戴していますので、改善に向けて今後も工夫を重ねていきます。

【実施目標】

・建築のイメージを損なわないよう、十分なメンテナンス、館内清掃を行う。

・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。

・運営事業者と協力して、付帯施設（レストランおよびミュージアムショップ）を来館者ニーズに応じて運営する。

［目標設定の理由］

・横須賀美術館が来館者に好ましい印象を持たれている大きな要因の一つは、周囲の豊かな自然と、その風景と調和したユニークな建物です。しかし、海のそばに立地しているため、強い風雨にさらされることも多く、また塩害などによる老朽化が進んでいることも事実です。建築の魅力をいつまでも来館者に伝えていくためには、適切なメンテナンス、清掃を継続していくことが重要です。

・また、スタッフの対応によって、美術館に対する印象は大きく左右されますので、受付・展示監視スタッフ等の受託事業者との緊密な連携を図り、来館者の立場に立ったより良い接客を目指します。

・美術館を訪れた際の買い物や食事も、来館者の大きな楽しみです。レストランおよびミュージアムショップと連携し、来館者のニーズに即応したサービスの提供がなされるよう、知恵を出し合い、工夫を重ねていきます。

［一次評価の理由］

（メンテナンス）

・本館ガラス屋根や谷内館出入口建具の劣化した部分の補修を行いました。

・停電時に非常電源を供給する直流電源装置が故障したため修理を行いました。

・空調関連設備の故障や経年劣化部分について修理を行いました。

（清掃）

・日常の清掃について、人員が必ずしも充分ではない（開館前４名・日中１名）ので、利用状況に応じて重点を移す効率的な清掃を心掛けています。

（休憩所）

・繁忙期（ＧＷ・夏季）の休憩所を確保するため、26年度からワークショップ室前に簡易休憩所（屋外用テーブル・椅子）を設営しています。利用率も高く、ご好評をいただいていますので、今後も継続していきます。

（受付・展示監視）

・受付や展示監視に従事するスタッフは、来館者と直に接するためクレームの対象と

なりやすい立場にあります。特に展示監視は、展示物に触ろうとする来館者や迷惑行為をしている来館者への注意などを行うため、クレームを受けやすい業務です。年に数件のクレームはありますが、受託事業者の自助努力（研修、スタッフの入替など）や、館内における情報の共有化の促進によって日々改善の努力を続けており、満足度の数値も一定以上の水準に達しています。

・情報の共有や、来館者への対応方法の指示などをきめ細かく行う目的で、来館者からのクレーム内容や対応の記録を日報として毎日提出するよう、平成21年度より展示監視スタッフに義務付けています。
また平成26年10月の受託事業者変更時から受付スタッフにも日報の提出を義務付けており、課題が生じた場合に迅速に対応する事ができるようにしています。

・現在の受託事業者においては、社内講師による研修や外部講師による接遇マナー研修を実施するとともに、事業者独自の覆面調査員による接遇チェックも行なわれており、その結果はスタッフ対応の満足度向上となって現れていると考えられます。

（ミュージアムショップ）
・利用者アンケートの満足度が向上するよう、定期的な打合せを実施し事業者と協力しています。

（レストラン）
・メニューの見直しなど運営事業者の自助努力により満足度はかなり向上しています。満足される理由としては、「質の高い食事」「おいしい」のほか、「景色がよい」ことも挙げられています。

・企画展ごとに、展示のイメージや内容に合わせた「コラボレーションメニュー」を考案して提供しており、好評を博しています。

・顧客のストレスを軽減するため、土日祝日の混雑時（12時～15時）については事前予約をとらず、先着順に対応しています。

（災害への備え）
・例年通り年２回の防災訓練を実施しました。避難経路の確認および誘導に重点を置いた実践に即した内容で、受付展示監視をはじめ事業者のスタッフも参加して充実した訓練となりました。

（その他）
・平成21年度より、毎月１回、レストラン、ショップ、受付展示監視、警備、広報、総務、学芸の参加による運営事業者連絡会議を開催し、館内で起こっている諸問題について情報共有、改善の提案、検討を行なっています。平成26年度からは設備日常監視業務の受託事業者も参加しています。

・混雑が予想される連休等にあわせて、ケータリングカーを誘致し、より多くの来館者に軽食等を提供できるようにしています。（平成20年度以降継続）

⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】　福祉関連事業への参加者数延べ 420 人以上

［目標設定の理由］

・福祉関連の事業は、内容の充実を図るために対象や参加人数を限定する場合があり、そうした場合は参加者数が減ることとなります。しかし、限定したからこそ、対象の特徴に応じたプログラムの計画実施が可能となり、普段美術館を利用しにくい方でも参加することができる事業を行うことができます。

・上記のような事情により、福祉関連事業は、その年の事業の性格次第で参加者数の増減が大きくなりがちです。そこで、過去の事業内容と参加者数、平成 29 年度の事業内容を考慮し、420 人以上を平成 29 年度の目標値としました。

［一次評価の理由］

29年度の福祉関連事業への参加者数は延べ435人となり、目標を達成しました。

福祉関連事業への参加者数　（単位：人）

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
福祉関連講演会	31	28	27	12
福祉関連ワークショップ	50	45	84※1	37
福祉関連パフォーマンス	151			
みんなのアトリエ（障害児者向けワークショップ）	191	189	192	197
託児	34	25	19	23
未就学児ワークショップ	39	31	39	33
他館連携（MULPA）	―	―	―	133※2
計	496	318	361	435

※１　27 年度までは、福祉ワークショップ１回、福祉パフォーマンス１回と分けていたが、28 年度より、「福祉ワークショップもしくはパフォーマンスを２回開催する」こととし、目標数を合算しました。

※２　他館連携は平成 29 年度から 32 年度までの実施とし、33 年度以降については、一部事業を継続していくか、他事業と合わせて検討する予定です。

【実施目標】

・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う。

・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。

・託児サービスを積極的に周知していく。

［目標設定の理由］

・各種事業を通じて、美術館が健常者のみの施設ではないこと、障害の有無に関わらず美術を楽しめること、また各年齢や状況に応じた楽しみ方があることを伝えていきたいと考えています。

・設備や什器を新規に導入するよりも、対話鑑賞のような人的対応を充実させることのほうが、福祉の充実につながると考えています。

・障害者等のニーズを、職員が実践を通して知ることによって、次年度以降の取り組みや長期計画に活かしていきたいと考えています。

・子どもを持つ方が安心して美術館事業に参加できるようにするためには、託児サービスについても広く知っていただくことが必要と考えています。

［一次評価の理由］

・障害児者向けワークショップ「みんなのアトリエ」では、チラシやＨＰによる広報だけでなく、口コミによっても、参加者の層が広がっています。リピーターはもちろん、新しく参加する方も、リラックスしながら、それぞれのペースで制作を行うことができています。

・福祉講演会「指先から広がる可能性―触覚による美術鑑賞」（2月10日）では、障害当事者のほか、盲学校の教員や、視覚障害者向けのワークショップの企画担当者などが参加しました。広報の工夫により、これまで以上に関心の高い参加者を得ることができたと考えます。また、この講演会の10年を振り返るという内容は、今後の向けた新たなステップを検討するよい機会になりました。

・視覚障害者も、ともに参加することのできるワークショップとして、「Catch and Throw」（9月24日）、「話して、触れて、つくって楽しむ美術館」（9月30日）を開催しました。前者では、当日参加可としたこと、海の広場等も活用したことなどにより、開放的な雰囲気のワークショップとなりました。また、後者では、広報先を広げたこともあり、関心の高い層を得ることができました。参加者数は多くなかったものの、充実した内容のワークショップとなりました。

・未就学児向けのワークショップは、対象を５、６歳児とし、他の子ども向けワークショップとの差別化を図っています。平成29年度の「ぱたぱた鳥をつくろう」（3月3日、4日）では、年齢に合った内容、経験を重ねた講師のリードおよびスタッフの行き届いた配慮等により、未就学児一人でも楽しく制作できました。

・他館連携（MULPA）は、近隣美術館（神奈川県立近代美術館、平塚市美術館、茅ヶ崎市美術館）や芸術活動支援団体と協力し、障害者や定住外国人等の美術館利用を促進するための普及事業を検討実施していくプロジェクトです。平成29年度は、キックオフイベントとしてフォーラム「みんなで“まなびほぐす”美術館」（7月8日、於：関東学院大学関内メディアセンター）を開催しました。3人のゲストによるオープニングトークと、参加者同士が意見交換をするワールドカフェの2部構成とし、障害の種類や有無、国籍などに関わらず「みんなが楽しめるアートプログラム、美術館」について探求しました。障害当事者や県内外の社会教育施設の職員、学生ボランティアをはじめとして、さまざまな立場の方が参加し、活発な意見交換を行うことができました。

・平成29年度の養護学校等の受け入れは、中高3校、延べ5日間でした。いずれも、引率の教員と事前準備を重ね、生徒に合った鑑賞支援プログラムを提供しています。このほか、横須賀市の相談教室（小中学生対象）や、ろう学校が来館する際も、それぞれ要望に合わせた対応を実施しました。

［次年度への課題］

・「福祉ワークショップ」は、事業の性格上、例年、周知・集客に難しさを抱えています。特に、障害当事者の参加を得ることは容易ではありません。一方で、美術館には、これまで研究し蓄積してきたアクセシビリティの向上に関するさまざまな知識があります。これを実際の福祉活動に生かし、より多くの障害当事者の参加を得ていくためには、市の関連部署の協力が望まれるほか、新たなワークショップ形態や参加方法についても、検討する必要があります。

・「みんなのアトリエ」については、リピーターの割合が大きくなっています。そのような参加者の期待が維持できるよう、内容を発展させていく必要があるのと同時に、新規の参加者を増やすことも重要です。また、毎年３月にワークショップ室で行っている１年分の作品展示については、観覧者から好評を頂いていますが、広報活動の場として活用し、本事業をさらに周知するよう努めます。

・養護学校や支援級については、今後も継続して美術館を利用することが推測されます。毎年来館する生徒も存在し、プログラムのマンネリ化が懸念されるところです。教員と意見交換しながら、児童生徒が飽きないよう、プログラムを検討・実施することが求められます。

⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
B	A

【達成目標】　電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近３年間の平均値を目安とする。

［目標設定の理由］

・電気料、水道使用料は、美術館の総事業費の約２割弱を占めることから、達成目標を定め管理していく必要があります。

・職員が努力した効果を目に見えて感じることができるように、電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を、直近３年間の平均値を目安・目標とします。

［一次評価の理由］

	H26	H27	H28	H29（目標）	H29（実績）
総電気使用量(kWh)	2,582,595	2,540,390	2,441,219	2,521,000	2,539,289
水道使用量(㎥)	4,077	4,396	4,394	4,280	4,608
事務用紙使用枚数(枚)	216,104	211,250	253,550	226,900	259,550

電気使用量については直近３年間の平均値の平均値程度、水道使用量と事務用紙使用枚数について目標数値を超過しました。目標数値を上回った理由としては、以下のものが挙げられます。

（１）観覧者増による手洗い場の利用増およびレストランの水道使用量の増
（２）イベントの増加により使用した用紙の増

【実施目標】　職員全てが費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。

［目標設定の理由］

・サービスを低下させず経費を削減しスリムな運営体制を目指すためには、職員全員が費用対効果を常に意識した行動が必須であると考え、実施目標としました。

［一次評価の理由］

・各業務の予算執行時には、複数業者からの見積書徴収や競争入札を行うなど、業務の質を担保しつつ最も少ない経費で業務を執行し、経費削減を実現しています。

具体的な内容の主なものは、次のとおりです。

（１）特に展覧会の委託関連の予算執行にあたっては、費用対効果の観点から委託内容を見直し、仕様書を再点検し、経費削減に努めました。

（２）事業者選定においては、定められた基準等により契約額及び契約先は入札によって決定します。特定の業者でなければ実施できない業務を除いて見積り合せを行っています。この結果、事業の質を担保しつつ最も少ない経費で業務を実施しています。

・展覧会関連の出張については、スケジュールをまとめ、出張経路を最短に設定し、経費を削減しています。

・一部の案内パンフレットについては、印刷業務委託ではなく、手刷りで作成することで、より少ない経費で業務を執行しています。

・事務用品についても在庫の整理を実施しながら、必要な物の調達を行っています。

［次年度への課題］

・電気使用量や水道使用量は天候や観覧者数等に影響される傾向がありますが、他方で職員の業務執行においては無駄な使用を控えるという意識を持ち続けるように、定例会議等で啓発を行います。

・業務執行において経費を節減することは当然ですが、同じ費用の中で最大限の効果を発揮できるように、計画段階や業務執行の中で継続して考えていきます。